

「『地域の知の拠点』の生かし方」に関するアンケート実施報告

「『地域の知の拠点』の生かし方」に関するアンケートの実施結果を下記のとおりご報告いたします。

アンケートにご協力いただきました e - モニターの皆さまに厚くお礼を申し上げます。

なお、アンケートの内容及び回答集計については、 e - モニターのホームページ（下記リンク先）をご覧ください。

<http://www.e-kocho.pref.mie.jp/monitor/index.html?a=top;result&id=45>

アンケート概要

アンケート実施期間

平成20年9月11日から平成20年9月23日まで

意見募集の結果

対象者数 1,144名

回答者数 785名

回答率 68%

回答者属性

性別 【男性】408名 52% 【女性】377名 48%

年代別

【20代】	【30代】	【40代】	【50代】	【60代】	【70代以上】
87名	201名	187名	173名	109名	28名
11%	26%	24%	22%	14%	3%

地域別

【北勢】	【中南勢】	【伊勢志摩】	【伊賀】	【東紀州】
339名	201名	125名	82名	38名
43%	26%	16%	10%	5%

アンケート結果を受けて

設問1 県立図書館の利用状況

県立図書館をご利用いただいたことがある方は37%、ご利用いただいたことがない方は60%、あることすら知らない方は3%でした。

昨年の7～8月に実施しました「県立図書館の利用状況についてのアンケート

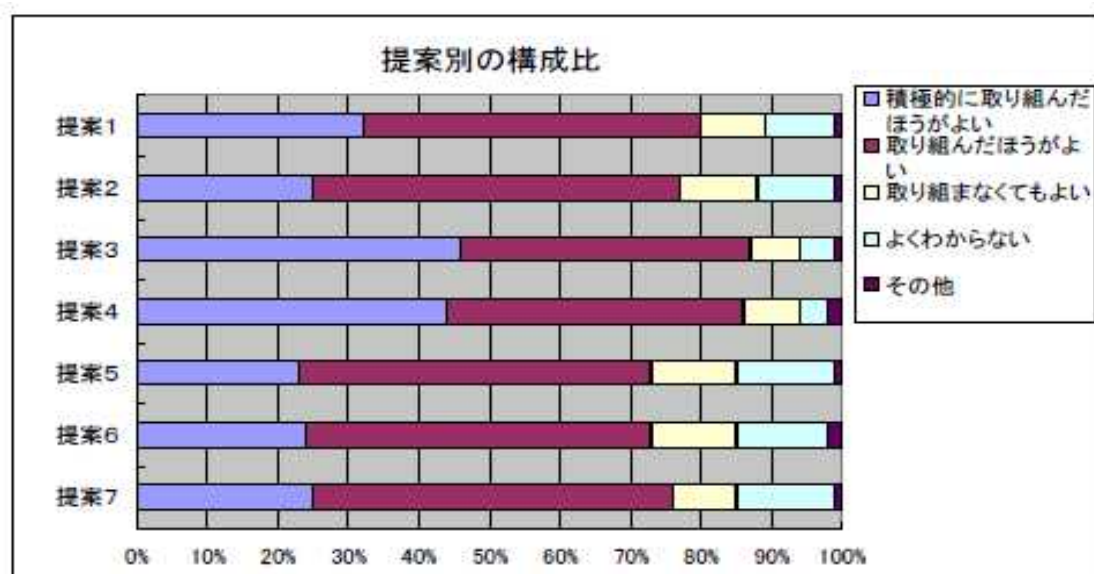
ト」で同じ内容の設問をさせていただきましたが、そのときより「ご利用いただいたことがある方」の割合が8ポイント上昇し、「あることすら知らない方」の割合が8ポイント低下しました。

設問2～8 会議の提案について

「みんなで創ろう『みえの舞台づくり』会議」で委員の皆さまからいただいたご提案について、「これからの『県立』図書館に期待する（求められる）役割・サービスとして必要かどうか」という視点でお答えいただきました。

いずれの提案も7～8割以上の方が、「積極的に取り組んだほうがよい」または「取り組んだほうがよい」との回答をいただきました。

特に、提案3「地域に出向く取組の充実」と提案4「子どもたちが利用しやすくなる環境づくり」については、4割以上の方から「積極的に取り組んだほうがよい」との回答をいただきました。



設問9 利用者の「学び」のレベルアップにつながる提案

提案1～7のうち、もし実現したら利用者の「学び」のレベルアップにつながると思われるものを3つまでお答えいただいたところ、提案4「子どもたちが利用しやすくなる環境づくり」を上げられた方が486名（回答者数の62%）と最も多く、次いで提案3「地域に出向く取組の充実」が379名（48%）、提案2「文学関係資料や情報等の充実」が253名（32%）となっています。

設問10 今後の会議に対するご意見

今後の会議で、提案1～7について議論を深めていくにあたって、各提案を

さらに良くするためのアイデアなどについてお聞きしたところ、数多くの具体的なご意見・ご提案をいただきました。

《提案1》他の文化施設の紹介コーナーを設ける仕組みづくり

単なる施設の紹介ではなく、文化や歴史の面で「三重県とはこんなところ」というものを明確にする。

県内の情報・パンフレットを揃え、いろんな質問に答えることができる職員を配置する。

市町立図書館に県立施設の案内コーナーを設置する。 など

《提案2》文学関係資料や情報等の充実

三重県が舞台となっている小説や文学資料などを情報提供する。

県出身の文学者との交流会や講義を開く。

文学者に限らず、県出身の著名人（映画、音楽、芸術、エンターテインメントなど）の情報を充実させる。 など

《提案3》地域に出向く取組の充実

地域の課題に合致した公開講座や、昨今話題などをテーマに地域交流イベントを開催する。

長期入院している子どもたちや、高齢者が住んでいる地域への移動図書館を実施する。

県立図書館は地域に出向くよりも市町立図書館の支援を充実することが必要。 など

《提案4》子どもたちが利用しやすくなる環境づくり

子どもたちもボランティアとして本の修繕を行う。

飛び出す絵本など面白いものを作るイベントや、親子で参加するイベント（例えば、本の借り物競争など）を開催する。

子どもたちが自ら考え、調べ、発表する場をもっと増やすことで子どもたちが自信を身に付けることができる。 など

《提案5》共通テーマによる連携の取組

奈良の国立博物館の法隆寺展に行き、その入場券を見せると法隆寺の入館料が割引になったように、同じテーマで各施設が催し物をしているような視点で見れるとよい。

クイズ番組風のイベントにして興味をもちながら参加できるようにする。

協力者・協力施設の参画も視野に入れる（案内人を地域で募集、地域のお年寄りの活用など）、 など

《提案6》日常的な交流の場づくり

放送大学と連携して日常的・継続的な講義や交流を行う。

地域の交流や活動の成果を公開授業として発表する。

県内各地の歴史的な文化や産業などをもとに、今後のまちおこしの参考になるものを交流テーマとして考える。 など

《提案7》地域の交流・活動グループのサポート

行政主体ではなく、学生等のボランティアを活用してサポートする。

活動グループの発表の機会を定期的に関く。 など

《その他のご意見》

「利用者の学びのレベルアップ」以前に、利用者を増やす取組が大切である。市町立図書館で県立図書館の本が借りられることをもっとPRすべきである。

県立図書館の本来の役割として、高価で希少な本を揃え、市町立図書館がもっと利用できるようにする。

県立図書館の充実も大切だが、県民が市町立図書館を利用しやすくなるように活性化すべきである。 など

さいごに

今回のアンケートでいただきましたご意見・ご提案につきましては、今後の「みんなで創ろう『みえの舞台づくり』会議」で議論する際に活かしてまいりたいと考えています。

今後の会議の内容につきましては下記リンク先をご覧ください。

http://www.pref.mie.jp/KIKAKUK/HP/butaikaigi/main_butaikaigi.html

お忙しい中、ご回答いただきましたモニターの皆さまには、改めて心よりお礼を申し上げます。